NEWS

国立新美術館ニュース

7

2015 秋号

≪愛万歳≫　1990年　70×100cm
オフセット印刷 Yoko増田静江コレクション
画像提供：Yoko増田静江コレクション
© 2015 NIKI CHARITABLE ART FOUNDATION,
All rights reserved.

ニキ・ド・サンファル展

境界を超えるアーティスト、ニキの多様な世界

EXHIBITION

展覧会　日本最大級の展示スペースを生かし
多彩な展覧会を開催しています

企画展　ニキ・ド・サンファル展

境界を超える
アーティスト、
ニキの多様な世界

昨年の秋、パリのグラン・パレで開催されたニキ・ド・サンファルの大回顧展は約60万人の観客を集めました。本展では、このパリの展覧会の要素を取り入れながら、初期作品から晩年の大作まで各時代の代表的な作品を集め、ニキの芸術の全貌に迫ります。また、1980年代以降、20年以上にわたってニキと交流をし、ニキ美術館（1994年開館、2011年閉館）を創立したYoko増田静江氏とのかかわりにも焦点を当てます。ニキ作品の魅力を本展担当研究員の山田由佳子に聞きました。

――ニキはどのような作家ですか？

初期の頃は、ナイフやピストルのおもちゃなどの武器を画面に張り付けた作品を制作し、また、絵具を入れた缶や袋を埋め込んだ石膏レリーフなどに向けて銃を放つことで完成する「射撃絵画」を発表しました。ニキは、武器を用いることで同時代の戦争における暴力を、作品を見る人達に想像させたのです。

ニキは女性をテーマとした作品を数多く制作した作家としても知られています。典型的な家父長制の家庭の中で育ち、両親との複雑な関係に悩んだニキは、幼い頃から自らを取り巻く保守的な環境に反抗心を抱いていました。10代の後半から数年間、雑誌のモデルという仕事をしたこと、若くして結婚をし、二人の子どもを持ったこともニキが自ら女性であることを深く考え、作品を作っていくうえで大きな影響を与えることになったと思います。

こうした社会性の強い作品を作る一方で、ニキは様々な宗教に関心を持ち、精神性溢れる幻想的な作品も数多く生み出しました。その集大成と言えるのがイタリアのトスカーナ地方に作り上げた彫刻庭園の「タロット・ガーデン」です。ニキは

絵画や彫刻に限定せず、映画や舞台芸術、さらには建築プロジェクトなど、様々な分野で作品を制作しました。多面的な考え方や枠にとらわれない表現で、独自の世界を展開したニキは「境界を超えるアーティスト」と言えるでしょう。

──日本では、鮮やかな色彩の女性像が有名ですね。

1965年に発表した、とりわけパワフルで開放的な女性のイメージとして知られる「ナナ」のシリーズで、ニキは人気を博します。丸みを帯びた形をしていて、踊ったり逆立ちしたりと動きのある「ナナ」は、伝統的な西洋美術における静的で理想美を追求した女性像とは全く異なる印象を与えます。カラフルな色彩はヒッピー文化からの影響を受けてもいるのです。こうした自由で明るさに満ちた作品を発表する一方で、《ビックヘッド》のように悲しそうな表情の女性の像なども作っています。女性が抱える苦しみや欲望も、大きなテーマであり続けたのでした。ニキの創作の軌跡を時代順に追いながら、今回の展覧会では各章にテーマを設けて、その多様な活動を紹介します。

《ビッグヘッド》1970年 245×223×100cm ラッカー塗料／ポリエステル Yoko増田静江コレクション 撮影：林雅之

映画『ダディ』のカラースチール写真 撮影：Peter Whitehead

CURATORS' VOICE

本展担当研究員の山田由佳子に注目作品を聞きました。

ニキはドラゴンをモティーフとした作品を複数発表しています。今回の展示では、それらの作品を集めた部屋をつくりました。少女時代から文学の世界に親しみ、空想の動物が好きだったニキは、日本の“ゴジラ”からも影響を受けました。本作を制作することでニキは、この核の怪物のイメージを用いて戦争や核の問題に向き合ったのです。本作は、日本とニキとの関係を結ぶ作品でもありますので、是非注目してみてください。

《ティラノサウルス・レックス／モンスター／射撃のドラゴン（《キングコング》のための習作）》1963年春 198×122×25cm 塗料、石膏、動物の剥製、プラスチック、さまざまなオブジェ／板 ニキ芸術財団（協力：ジョルジュ＝フィリップ＆ナタリー・ヴァロワ・ギャラリー）©André Morin / Courtesy Galerie GP & N Vallois

ニキ・ド・サンファル展

会　　期：2015年9月18日（金）— 12月14日（月）
休 館 日：毎週火曜日（ただし9月22日、11月3日は開館）、11月4日（水）
開館時間：10:00〜18:00　金曜日は20:00まで
※入場は閉館の30分前まで
会　　場：企画展示室1E

© 2015 NIKI CHARITABLE ART FOUNDATION, All rights reserved.

企画展　未来を担う美術家たち 18th DOMANI・明日展

海外研修を経た期待の美術家たちが作品を発表

文化庁の「新進芸術家海外研修（旧：芸術家在外研修）制度」による研修修了後の発表展「DOMANI・明日展」。18回目となる本展では、「表現と素材　物質と行為と情報の交差」をテーマに、作家が扱う「素材」に着目し、「素材」の際立つ12名の作家を紹介いたします。絵画、彫刻、版画、染織、モザイク、アニメーション、映像、インスタレーションといった多彩な展示に加え、保存・修復分野の研修発表を２名が行います。

松岡圭介《a tree man》2011年 作家蔵
写真提供：アートシード

未来を担う美術家たち 18th DOMANI・明日展
文化庁芸術家在外研修の成果

会　　期：2015年12月12日(土)—2016年1月24日(日)
休 館 日：火曜日（ただし2015年12月22日(火)—2016年1月5日(火)は年末年始休館）
開館時間：10:00〜18:00　金曜日は20:00まで開館
※入場は閉館の30分前まで
会　　場：企画展示室2E

企画展　平成27年度［第19回］文化庁メディア芸術祭

メディア芸術の“いま”が賑わう総合フェスティバル

文化庁メディア芸術祭では、「アート」「エンターテインメント」「アニメーション」「マンガ」の４部門において作品を募集し、プロ／アマチュア、自主制作／商業作品等の垣根を越えて、世界各地から多彩な作品が集まります。19回目を迎える今回も、見事受賞に輝いた作品群が国立新美術館に集結。展示・上映・イベントを通して、時代とともに変わる「メディア芸術」の“いま”を楽しめます。

第19回
文化庁
メディア芸術祭
19th JAPAN MEDIA ARTS FESTIVAL

平成27年度［第19回］文化庁メディア芸術祭

会　　期：2016年2月3日(水)—2月14日(日)
休 館 日：火曜日
開館時間：10:00〜18:00　金曜日は20:00まで開館
※入場は閉館の30分前まで
会　　場：企画展示室2E

公募団体等の活動

「白峰社書展」

私達は日本や中国の古典を研究し、現代の字句を素材とした書作品を主に発表してきた「現代書研究　白峰社」です。創立は1982年春です。

「古典はその時の現代書であった」の言葉通り、いつの時代もその時代の言葉を書いたものが古典として残っています。日常話している言葉を作品にしようという運動が、金子鷗亭、飯島春敬、国井誠海先生を中心に戦後まもなく起こりました。これに賛同している私達はもっと大勢の方に作品を観ていただき、近代詩文書（漢字・仮名交じり文）を広めたいとの思いでいっぱいです。そのために審査の公平を期しての外部評価の導入、内舘牧子氏・田宮文平氏を講師に迎えての講演会を実施しています。その他にも席上揮毫（きごう）、作品解説、国立新美術館の会場に一番ふさわしいと思う大作の発表などいろいろな企画を心掛けています。おかげさまで当初1階CD室で開催していた時は14,000人に迫る入場者を迎えることが出来、このことが私達の自信にもなっています。

創立当初から東京勢の明るいセンスと東北勢のひたむきな歩みというお互いの絆の強さで今日まで活動してきました。会場、環境にも恵まれたこの国立新美術館で、これからも「字句の内容を個性的に表現する」現代書を追及してまいります。

（白峰社）

白峰社書展　展示風景

EDUCATION

教育普及

美術に親しむワークショップや講演会の開催、
鑑賞ガイドブックの配布などを行っています

だれの作品？
どんなストーリー？
想像がふくらむ「Life Type」

白い壁に整然と並ぶ、モノクロームの作品。まるでアーティストの個展が開かれているギャラリーのような光景ですが、実はここは美術館地下1階の休憩コーナー。展示されているのは、クリエイティブユニットSPREADによるワークショップ「Life Type　ライフ タイプ――じぶん・ひと　知り合うデザイン」(6月14日開催)で参加者が制作した作品です。

Life Typeは、自分の人生の中で経験した出来事や瞬間をアルファベットと記号で表現していくグラフィック作品。一枚一枚には、だれかの人生に起こった特別なストーリーがこめられています。このワークショップでうまれたLife Typeをポスターサイズに引き伸ばし、報告パネルとともに、夏の2か月間展示しました。「大きなAはだれかの名前？」「この数字が重要そう」作品が並んで雰囲気が一変した休憩コーナーを訪れた人は、一点一点をじっくり見ながら、想像を楽しんでいました。

Photo: Jingu Ooki

＊Life Type の展示・公開は終了しました。
＊ワークショップや展示に関する最新情報は、
　国立新美術館ホームページをご覧ください。

LIBRARY

美術資料

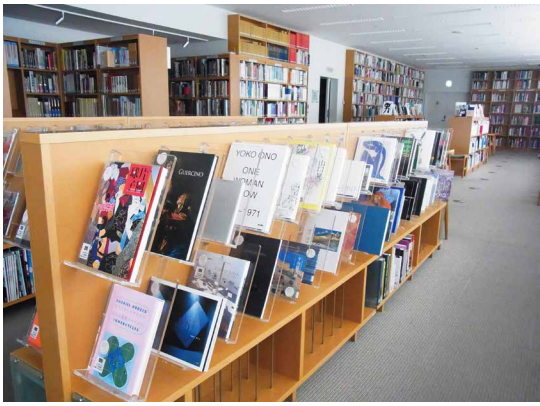
国立新美術館では
美術の資料や情報を収集・公開しています

展覧会カタログの収集

アートライブラリーでは、展覧会カタログの収集に力を入れています。特に日本のカタログは、書店で販売されることが少なく、網羅的な収集が難しい資料です。当館では、かつて赤坂にあった展覧会カタログ専門図書館「アートカタログ・ライブラリー」の旧蔵書約2万冊をもとに、他の美術館との交換事業や、ご寄贈によってカタログを収集しています。

当館のカタログ交換事業は、国内外の約500機関（国内400機関、国外100機関）のご協力で成り立っています。各機関には同じカタログを3冊送っていただくようお願いしています。そのうち2冊は当館所蔵用、1冊は「JAC（Japan Art Catalog）プロジェクト」（日本の展覧会カタログを海外の日本美術研究機関4箇所に寄贈）用になります。このプロジェクトを通して送ったカタログが、国外のライブラリーに所蔵されることによって、日本の展覧会事業の成果を海外にも発信しています。こうして集められたカタログは、現在では9万冊以上になり、インターネットから検索できるようになっています。

アートライブラリーでは今後も展覧会カタログを積極的に収集し、後世まで保存・公開できるよう努めていきます。皆様も当館アートライブラリー所蔵の展覧会カタログを通して、美術の歴史を振り返ってみてはいかがでしょうか。



展覧会カタログが並ぶ書架（美術館3階アートライブラリー）

CAFE & SHOP カフェ＆ショップ

「ニキ・ド・サンファル展」期間限定 特別メニューを提供中！

開催中の「ニキ・ド・サンファル展」にちなんだ特別メニューを館内レストラン＆カフェにてご用意しております。フランスに生を受けたニキ。作品の随所に使われている鮮やかな色彩からインスピレーションを得た期間限定特別メニューの数々をこの機会にお楽しみください。

3階 ブラッスリーボール・ボキューズミュゼ」の展覧会特別メニュー ※画像はイメージです。

「すこし背筋をのばす」展 2015年10月21日(水)—2016年1月18日(月)

B1階SFTギャラリーでは「和菓子や日本茶に合う、凛とした佇まいの器」をテーマに、6名の陶芸作家による企画展を行います。新しい年を迎えるにあたり、気持ちを新たにすこし背筋をのばして、お茶の時間をお楽しみください。

PICK UP ピックアップ

小さなお子さまをお連れの方も ゆっくりと美術鑑賞ができるように

国立新美術館では、来館者サービスの一環として「託児サービス」を月３回ほど実施しています。育児中の方でもゆっくりと展覧会をご鑑賞いただけるサービスです（有料・要事前予約。詳細はホームページをご確認ください）。また、館内には授乳室（地下１階）やオムツ替え用ベビーシート（各階多目的トイレ内）を設置し、インフォメーション受付にてベビーカーの貸し出しも行なっております。小さなお子さまと一緒でも心配なくご来館いただける来館者サービスを充実させ、皆様のお越しをお待ちしております。

新 国立新美術館 THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2　Tel: 03-5777-8600（ハローダイヤル）　www.nact.jp
7-22-2 Roppongi, Minato-ku, Tokyo 106-8558　Tel: +81(0)3-5405-8686 (Hello Dial)
編集・発行：独立行政法人国立美術館 国立新美術館 / デザイン：3KG　2015年10月発行